

2019年6月20日

学校法人三幸学園
神戸元町こども専門学校
校長 西島 多枝子 殿

学校関係者評価委員会
委員長 松本 悠

学校関係者評価委員会報告

2018年度 学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 大須賀 恵実 委員 (山善福祉会 しおさいこども園 園長)
- ② 川本 瑠未 委員 (神戸市小規模保育事業 oahana 保育園 第1期卒業生)
- ③ 松本 悠 委員 (飛鳥未来きずな高等学校 神戸キャンパス 教頭)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2019年6月3日(会場 学校法人三幸学園 神戸元町こども専門学校 604教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2018年度 学校法人 三幸学園 神戸元町こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 武藤 洋和

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 松本 悠

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①前年度重点施策振り返り

学校スローガン:「飛躍する神戸校」

学校目標:

- ・元気な挨拶、正しい言葉遣い、積極的に努める生徒を育てる！
- ・資格取得、検定合格率 80%以上を目指す！実績:

保育士 97.6% 幼稚園教諭 2種免許:98.8% 目標達成

- ・退学率:目標 5% 実績 3.8% 目標達成
- ・生徒募集目標 120名 実績 125名 目標達成

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

①課題

教育理念に基づき人材育成像を掲げるものの、年数回の全体会議のみでの発信になり、殆ど意識することが出来ない状況で年度を終えてしまった。

②今後の改善方策

ポスター等を校内に掲示し「見える化」を図り、常に意識させる取組みから目指す人材像の促進化を図る。
資格合格率、出席率等も校内掲示を行い、視覚的教育効果を狙う。

③特記事項

なし

④委員会コメント

◇共通認識の図り方について

- ・園でも意思の疎通における課題がある。
会議の細分化、各会議議事録閲覧などで課題解決に取り組んでいる。（大須賀委員）
- ・細分化することで若いメンバーから発言もある。（川本委員）

◇人材の採用・求める人物像

- ・積極性・挑戦心があることや、チームで仕事をするを大切にできる人材を求めている。（大須賀委員）
- ・1年目の新任教員には 1～2 年社歴の先輩のメンバーを配置し、相談しやすい環境を作りフォローアップを行っている。（大須賀委員）

◇学校で学んで実際に生かしていること

- ・クラス委員などで人前に立つことの経験が、子どもたちや保護者の前にして話したり伝えたりすることに生かしている。（川本委員）

◆まとめ:

共通認識の図り方について、会議の発信に頼り切らず、情報共有の掲示物や資料閲覧ファイルなどを活用しながら口頭説明も行い、密な意思疎通を行う。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

①課題

多岐に渡る校務分掌がある中、質の向上を目指したいが、慢性的なマンパワー不足と人材育成の停滞が課題

②今後の改善方策

引き続き積極的な卒業生採用と、OJT・OFF-JTによる育成システムの構築

地域との連携を図る為にも教育活動に関する情報公開は更に改善を求めて行く

③特記事項

なし

④委員会コメント

◇働き方の工夫について

- ・産休・育休を取る職員も多く、退職する職員が少ない。今いる職員の満足度が上がると園の雰囲気も良くなり、自然と人材を確保できている。(大須賀委員)
- ・業務を時間内でやり切れるように指導と管理をし、残業はさせないようにしている。今後は勤務時間内に帳簿類などを作成できる時間を取ろうと考えている。(大須賀委員)
- ・園の方針で残業はしておらず、どうしてもという時だけ業務の持ち帰りもある(川本委員)

◆まとめ:

働き方の工夫について、どのような状況から残業が発生しているかを現状よりも更に検証を行い、業務管理と共に業務の進め方の改善に生かすことを検討する。また、年内残業時間を 320 時間以内にするなどの数値設定も行っていく。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	2
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

①課題

開校 3 年目になり、少しずつ関連分野との関係性が構築出来てきたが、まだまだ物足りないのが現状である。

②今後の改善方策

業界との繋がりが持てるよう、講師派遣やインターンシップ以上の産学連携の活動を継続的に行い、各施設との関係性を深める必要がある。

③特記事項

- ・年度末に授業の集大成として、保育発表会を開催（全学年対象）
 ※近隣保育園等招き 80 名程度の園児を招待
- ・チャレンジ実習（桑の木幼稚園） 夏と冬に希望者のみ実施

④委員会コメント

◇地域の方々との活動について

- ・地域の拠点事業として、地域の方が遊びに来ることができる環境を整えており、園の行事にも地域の方にも参加してもらっている。(大須賀委員)
- ・月1回同年齢の子ども達を園へ招待し、リトミック教室等を実施。保護者の繋がり・スーパー等に掲示などで呼びかけをしている。(川本委員)

◇園の研修について

- ・キャリアアップ研修として内外含め毎年6回実施している。法人全体で力を入れたい項目を毎年定め、研修を行っている。(大須賀委員)

◆まとめ:

地域活動について、地域の園・施設と連携した行事やイベントなどの関わりを増やし、地域支援並びに 保育現場の知識・技能をより一層取り入れていく。

(4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①課題

- 資格取得率の更なる向上
- 卒業生との関係構築
- 退学者の低減

②今後の改善方策

- 資格取得⇒教科会の定期開催
- 退学率⇒数値目標の達成計画設定・施策強化や、退学事前報告会等の開催
- 就職ガイダンスの開催を早期に行い、活動意識を早期に喚起させる

③特記事項

- 全国展開しているグループ校との連携により、資格取得に向けた傾向と対策を実施
- 同じように退学率低減についても教育開発部が主導となって、退学者への様々なアプローチを実施し 低減に努めている。

④委員会コメント

◇卒業生との関係構築(早期離職改善)について

- ・イメージしていたより忙しく、時間も早く過ぎる感覚。専門学校は先生と生徒の距離感も近く、相談もしやすく、気にかけてくれていることが嬉しく思う。(川本委員)

◆まとめ:

卒業生との関係構築について、引き続き卒業生に対し学校内にて同窓会の機会をつくり、学校にきやすい環境づくりに努める。また、学校からも積極的に卒業生に対し連絡をし、勤務状況の確認を行っていく。

(5)学生支援

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

①課題

様々な生徒が入学をする中(18歳~40歳台)すべてにおいてのフォローアップ体制が整いきれていない
卒業生への支援を在学中から発信していかなければならない

②今後の改善方策

ビジネススキル勉強会や、企業訪問の活用による専門基礎知識の向上
支援体制の仕組化と、特に卒業生との繋がりを支援
「同窓会 Sanko-Link」の活用と活性化⇒8月に同窓会開催予定

③特記事項

就職指導については、クラス担任と就職エリア担当のダブルサポートシステムを実施し、内定獲得まで導く体制作りをしている。

④委員コメント

◇学校から卒業生へのアプローチ

- ・卒業生が学校に相談した内容(伝えられることは取捨選択しながら)などを、就職園に連絡をしてもらうなど、学校が第三者的な役割として関わりと更に良いフォローアップができると思う。
(大須賀委員)

◆まとめ：

卒業生へのアプローチについて、学校と卒業生就職先が「就職後のサポート」という同じ目的で、卒業生との関りや就職先と情報共有を増やす機会を設けていく。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

①課題

防災訓練等は実施できていない

②今後の改善方策

年一回程度は防災意識を喚起させ、いざと言う時の為に訓練(避難場所の確認)を行う

③特記事項

避難誘導図を各教室に、また緊急地震速報が発報された際の行動案内ポスターを掲示している

④委員コメント

◇防災などの実際の取り組みについて

- ・津波などを考慮した園外への避難訓練を実施。保護者には入園時の説明会にてマニュアルを配布。
避難後のこどもの引き渡し方が課題。(大須賀委員)
- ・毎月火災を想定した避難訓練を行っている。(川本委員)

◆まとめ：

防災の取り組みについて、本校でも入学前説明会にて避難時の対応や避難場所の説明、情報共有を行う。
また、防災訓練についても年度計画に入れることを検討する。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

①課題

定員充足率を100%にする

②今後の改善方策

関西・広島広報室との連携強化を図り、募集活動にさらに力を入れる

③特記事項

兵庫県専修学校各種学校連合会に加盟し、同会で定められた**生徒募集ルール**に則り取り組んでいる
同分野大学・短大との競争激化が増している

④委員コメント

◇現在設定している AO エントリー時期(6月～8月)は適切なのか
・特に高校での保護者からの問い合わせはない(松本委員)

◇AO制度について

- ・早く決める人が多く、AO 制度が使えて良かった。高校から AO 制度の制限などは特になかった(川本委員)
- ・強引にAOを取ってしまうと、高校印象としてあまり良くない(松本委員)

◆まとめ:

専門学校と本人の間で勝手に進路決定にならないよう、引き続き高校や保護者に対し事前(事後)に共有を行っていく。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

②今後の改善方法

【中期計画】

昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③特記事項

なし

【委員コメント】

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

①課題

個人情報の取り扱いについて更に強化し教員意識とセキュリティレベルを上げる

②今後の改善方策

個人情報を格納しているロッカー施錠システムや、PCログインシステム等について周知徹底する。
また、万が一漏えいした場合を想定し、即時解決・2次被害防止など迅速な対応ができるよう、フローチャートの作成等準備を行う。

③特記事項

なし

④委員コメント

◇情報の取り扱いについて

- ・USBの使用禁止を2年前から実施。持ち帰りの仕事なくなった分、現場での仕事が増えていることもあり、PCの台数などが足りていないことが課題。（大須賀委員）
- ・個人情報の保管は鍵付棚に保管。写真などの掲載などは書面で承諾をもらっている。また、保護者の園内での撮影は、指定した場所のみ許可するなどの制限をかけている。（川本委員）

◆まとめ:

情報の取り扱いについて、WEB上のパスワード管理ができる共有フォルダの活用も視野に検討していく。
また、**生徒**に関わる公開(予定)情報は、引き続き事前に同意書を取ることを徹底していく。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	1

①課題

教育訓練受託等が申請出来ていない

②今後の改善方策

生徒募集の観点からも教育訓練生の受け入れを検討する

③ 特記事項

教育訓練受託を現在申請中

④ 委員コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

卒業生が少しずつ多くなっていく中、卒業した生徒たちが長く現場で活躍できる環境を作っていくことが大切である。そのような中、同窓会の実施などで就職先以外のフォローしきれない卒業生に対し、学校がサポートできる取り組みは非常に良いと思う。今後も園を含む地域との関係性を密にとれている学校となることを期待している。